

かたの



R3. 10. 4
形埜小学校
校長室だより

フットボール部への思いとともに

船越先生が話してくれました。「教室で、部活(ソフト部)の話題で盛り上がると、フット部の子達どう思っているかなと思わず見てしまいます。フット部も同じように大会に向けて熱くなりたいと、きっと思っているだろうから複雑な気持ちだろうなと思います。だから、部活の話をするときは言葉を選びました」と…。火曜日の給食時の映像についても、同様に「フット部が寂しい思いをしないように…」と有馬先生が気に掛けていました。私も、「確かにそうだな」と思いました。

そんなわけで、今日また、ソフト部の話をするのはどんなもんかなと悩みました。が、やっぱり、伝えようと思ったのは、「あきらめないことから生まれる力のこと」を知ってほしいと思ったからです。知ることで、みんなの「次へのエネルギー」につながってほしいとの考えです。また「あきらめないこと」そして何より「仲間や下学年を思いやる優しい心」を、形埜小学校のみんなに、これからもずっと大切にしてほしいと思っています。そんな思いから…

3点の重み

球技大会のお話です。少し前のことになりますが、伝えずにはおれません。心震えました。興奮で、夜もなかなか寝付けませんでした。何に震えたかという、6年生の「あきらめない心」「あきらめない心から生まれた3点」です。

～10月29日、勇んで会場にのりこんだものの、試合前の相手のアップの様子を見たみんなは、「このチーム、すごい守備うまいね…、ピッチャーの球もすごく速い…」と少々弱気な表情も見せていました。そんなこともあり、最初は、ピッチャーのスピードボールになかなかバットを合わせることができずに苦しみました。相手は、攻撃もなかなかのもので、点差は離れる一方です…。心折れそうな場面もありながらも、決してあきらめませんでした。

「とにかく1点を取るんだ」と、ベンチで確認。確認早々、□君の「絶対、1点とるんだ！」の強い気持ちが出塁として表れました。& 出塁だけでも、相当盛り上がったのですが、□君の目的は、出塁ではなく、「ホームベース」でした。(ベンチのサインは「任せた!(盗塁の判断は)»)彼は、迷わずチャレンジ。その本気のチャレンジが相手キャッチャーにも伝わったのでしょう。すかさず、1塁に牽制球が投げられました。それでも、□君、全くひるみません。ひるむどころか、「絶対に盗塁決めてやる!」と、覚悟が決まったようです。彼の魂の盗塁は、後者につながられました。その後、◇君の(これまた闘志あふれる)力強い振りから生まれた打球は、ライトを越えました。相手の様子を確認しながら、全力疾走で、ランニングホームラン、その結果3点をもぎ取りました。おかげで、笑顔で幕を閉じることができました。

この3点は、「あきらめない思い」をもち続けていた6年生へ、ソフトの神様からのご褒美だと思いました。もう一つ、心に残ることがあります。下学年がミスしても、それを責める6年生は、一人もいません。試合に限らず、練習の時からそうでした。だから、実は本番、5年生は(ミスやエラーもありましたが)練習以上のナイスプレー・ナイスカバーもたくさん見られたんです。6年生に守られながら、安心してプレーができた証だと思えます。形埜小の先輩達が繋いできた「仲間を思いやる優しい心」も、しっかり、引き継いでいました。

約一ヶ月の練習で、技も心も成長しました。そして、本番で、さらに成長したみんなです。その姿から、「あきらめない心」の大切さを、再確認できました。あの3点は、そのことを教えてくれるものになりました。

センターの頭上を大きく越えた打球を追う仲間の中継に次々に寄っていくみんな。「そんな大勢、行かなくても…」と思いましたが、ボールを必死で追っている仲間をほっておくことはできずについつい寄っていつてしまったんですね…。



ほら 優しいでしょ

おもいやり算

それは人を笑顔にする算数

÷ は わけあう

そして、

× は 声をかける

「」は ひきつける

「+」は たすけあう

人を笑顔にする算数

おもいやり算もできたね!

ところで、フット部のみなさん。今、先生チームで「フット部笑顔炸裂企画」思案中です!お楽しみ!

